

巻頭言

極低温科学センターの新しい組織と方策について

センター長 青木晴善
野島 勉
落合 明

学内の共同教育研究組織の再編が行なわれ、平成 18 年度より極低温科学センターは学術基盤群に新たに設けられた研究教育基盤技術センター内の業務組織のひとつとして、再出発することになりました。今後、極低温科学センターでは液体ヘリウムの供給と低温技術の指導が主要な業務となります。専任の教員は関連部局である理学研究科と金属材料研究所に配置換えとなり、そこで研究・教育を行なうとともに、極低温科学センターの兼任教員として従来どおりの使命を果たすこととなりました。組織の体裁は変化はしましたが、学内共同研究教育施設としての機能と実態には、従来とまったく変化はありません。

本センターは年間約 25 万リットルの液体ヘリウムを供給しており、学内の約 200 名の教員・研究者および約 400 名の大学院生の研究に関与し、年間 500 編以上の論文の出版に寄与するなど本学の教育・研究に貢献しています。また、液体ヘリウムを使用した共同利用機器は、約 60 編の論文の出版に貢献しております。液体ヘリウムの供給は本学の教育・研究を遂行する上で、電気・水の供給と同様に重要なライフラインとなっております。今後、機能を維持するためには関連設備の計画的な更新が必要です。現在、片平地区の液化機は設置後 10 年を経過しており、この更新を今後の重要課題として取り組んでおります。

また、極低温科学センターの運営のためにご援助いただいている運営費交付金を効率的に使用するためには、回収率の向上が重要です。16 年度までに片平地区、青葉山地区の回収配管網および回収のための関連設備の設置を終え、1 年間の試行期間を経て 18 年度から本格的に回収率に基づく液体ヘリウムの使用料金の算定を開始いたしました。回収率の向上は、現在戦略物資になりつつある貴重な液体ヘリウムを有効活用するためにも必要不可欠です。ご協力のほどよろしく願いいたします。

本学の教育・研究の振興のために新しい方策をおこなうとともに、より一層の効率的な運営を行う所存であります。今後とも本センターの運営には変わらぬご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。